

# Life Style

## 価値あるライフスタイルの創造

タカラレーベングループでは、「居住者と周辺環境の調和を最適な形で実現する」をコンセプトに、快適性・デザイン性を追求した住まいの提供を通じて、価値あるライフスタイルの創造を目指しています。そのためさまざまな取り組みは数々のグッドデザイン賞を受賞するなど、多くの方々から評価されています。



## 多様化した暮らしのあり方を捉えたマンションの供給

### 都市型コンパクトマンション「NEBEL」

近年、共働き世帯や単身世帯の増加により、住まいへの需要が変化し、広さよりも都心や駅に近いなど利便性の高い物件へのニーズが高まっています。タカラレーベンはお客さまのこうしたライフスタイルの変化に合わせ、単身者・DINKs向けの都市型コンパクトマンション、「NEBEL」シリーズの提供を開始しました。

当シリーズは、当社がこれまでのマンション分譲事業で培ってきた、ものづくりのノウハウを最大限に生かし、多様化した暮らしのあり方を捉えた都市型コンパクトマンションブランドです。現在供給しているファミリーマンションのデザイン性や仕様、設備のクオリティを本コンパクトマンションでも踏襲し、これまでに巣鴨、戸越公園、板橋、恵比寿などに「NEBEL」シリーズを展開しています。今後も、現代のライフスタイルなど社会のニーズに合わせた物件の供給により、より一層お客さまの充実した暮らしを支えていきます。



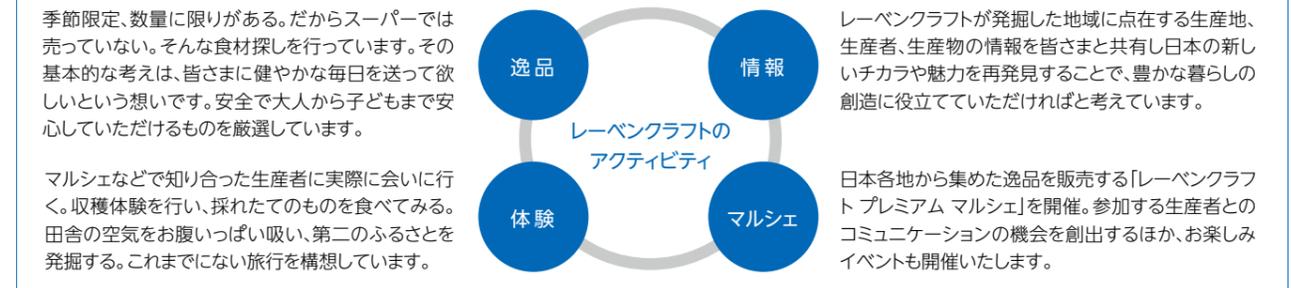
### 東京都中央区銀座に常設サロンを設置 ▶ SALON DE NEBEL



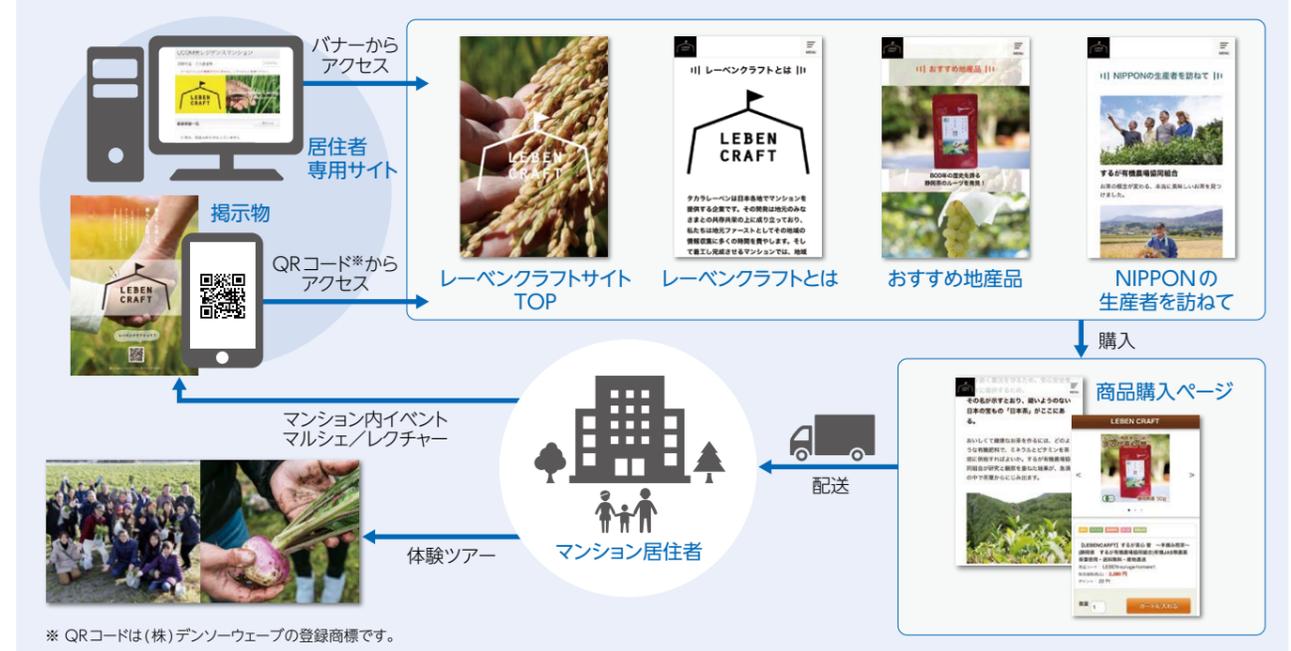
## 地方と首都圏をつなぐ、地方活性化の取り組み

### 「レーベングラフト」プロジェクト

「レーベングラフト」は、都市部に住むマンション居住者が、居住者専用サイトを利用して、当社グループがマンションを供給した地方の特産品を購入できる仕組みです。首都圏のマンションに住む人と地方をつなぐことで、地方活性化に貢献しています。数あるデベロッパーの中でも、都心部の開発だけでなく地方都市再生事業も行っている当社グループならではの取り組みです。



### レーベングラフト全体構成



### VOICE



日本全国には「数に限りがある」「消費期限が短い」などといった理由で量販店には不向きで、あまり知られていないけれど「おいしいモノ」がたくさんあります。あえて数量限定で消費期限も短い地方発信の素晴らしい逸品を発掘し、取り扱うことは、その地域の隠れた魅力を全国に発信することができるという点で地方活性化にもつながっていくと考えています。そのような日本の価値あるものを居住者の方々に紹介すべく「レーベングラフト」を立ち上げました。生産者によるマンションへの出張マルシェや食育体験ツアーなども企画しており、モノの行き来だけでなく、ヒトの行き来も生み出すべく計画しています。

開発本部 建築統括グループ 商品企画部  
網島 星子



## LEBEN LABO ETHICAL ACTION レーベンラボ・エシカルアクション

「レーベンラボ・エシカルアクション」は、「社会にもっと良いことをしよう」をテーマに、お客さまのさまざまな声を実現するために発足した社内組織です。ここから生まれた多くのプロジェクトがグッドデザイン賞を受賞しています。

<b>GOOD DESIGN AWARD 2013</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ルイック」プロジェクト</li> <li>「ソラパワ」プロジェクト</li> </ul>	<b>GOOD DESIGN AWARD 2017</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「もっとあったらいいな」プロジェクト</li> <li>「ソコポス」プロジェクト</li> <li>「レーベングラフト」プロジェクト</li> </ul>
<b>GOOD DESIGN AWARD 2016</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自助共助」プロジェクト</li> <li>「個人防災キット」プロジェクト</li> <li>「もっとあったらいいな」プロジェクト</li> </ul>	<b>GOOD DESIGN AWARD 2018</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ワーキングポイント」プロジェクト</li> <li>「グッドワーキング」プロジェクト</li> <li>「ソコタク」プロジェクト</li> </ul>

### VOICE



「レーベンラボ・エシカルアクション」は「幸せを考える。幸せをつくる。」という企業ビジョンを実践する取り組みの一つで、発足から4年目を迎えます。  
2018年には、取り組みの一つが「グッドデザイン・ベスト100」を受賞、東京・神戸での特別展示に取り上げられ、「エシカル」の活動は社内だけでなく社会にも広がりを見せています。  
「レーベンラボ・エシカルアクション」のプロジェクトはいずれも、知的財産の活用や物流、防災、地域共同体など現代社会の課題を高い視点から見据えながら、消費者一人ひとりが日常生活の中で実感することができる利便や安心、満足を大切にしています。これからも社会と個人を「幸せ」でつなぐような施策を創出し、活発に発信してまいります。

営業本部 営業統括グループ ウェブソリューション推進部  
深野 貴敬

### 「自助共助」プロジェクト

「自助共助」プロジェクトは、太陽光発電システム搭載マンションによる、災害時の給水・給電支援システムです。電気と保管貯水槽の水量を増やすことによって、災害時にマンション居住者だけでなく地域住民へも電気と水を提供することを目指す「アンシン水・アンシン電気」のほか、かまどベンチ・マンホールトイレ・防犯カメラなど防災設備の充実、敷地内広場を開放した防災訓練の実施など、社会のインフラの一部としてのマンション設備のあり方を新視点で提示しています。



### 「個人防災キット」プロジェクト

「個人防災キット」プロジェクトは、個々のTPOに合わせた防災対策をサポートする、デザイン性と機能性を兼ね備えた個人防災キットの開発・普及活動です。防災グッズを最大A4サイズのファイル型ボックスにコンパクトに収納し、軽量化を実現するとともに、詰め替えが可能なカスタマイズボックスとして継続的に利用できるようにしました。

災害に耐える建物づくりや住まいの中の安心・安全への対策を強化するだけでなく、デザイン性を工夫することで職場や外出先など、日常から防災意識を高めることにもつながります。



### 働き方のアイデアを募集し、実現する取り組み 「グッドワーキング」プロジェクト



働き方改革が叫ばれる中、会社側、従業員側にとっての本来の「働く」という行為を見つめ直し、自らが考え、実現できる改善と改革を行うことを目的に、「グッドワーキング」プロジェクトを推進しています。これは、働き方に関するさまざまな改善策から生まれた「社内グッドワーキング」を実務の現場で役立てる試みです。  
2016年、2017年の2年間にわたり、タカラレーベングループ

従業員413名(2017年度)から、働き手の視点からの改善・改革案を公募し、集まったアイデア1,093案をデータベース化。優れたアイデアに対してグランプリ表彰を行うとともに、実際の社内業務に反映しています。さらに当社グループ以外でもグッドワーキングのアイデア資産として活用していただくために、「グッドワーキング100選」として広く公開しました。

#### ■ 同プロジェクトのフロー



### 新型集荷ボックス+郵便ポスト付宅配ロッカー 「ソコタク」プロジェクト



マンション内に郵便ポスト付宅配ロッカーを設置することで、郵便局や郵便ポストでの回収が当たり前だった郵便物をマンション内で集荷可能にし、2017年度グッドデザイン賞を受賞した「ソコポス」。郵便業者との連携により誕生した、この「ソコポス」が、全ての宅配業者の集荷も可能とする「ソコタク」へと進化しました。マンション居住者は、郵便の自動発送・受取に加え、ゆうパックをはじめとする全宅配業者の集荷、24時間集荷預け入れをマンション内で行うことが可能です。

物流業界は人手不足に直面しており、ネット通販の普及で増加している物流量に対応しきれないケースが生じ、社会問題にもなっています。タカラレーベンは、これまでの宅配ボックスのシステムだけでは対応できない状況を鑑み、消費者・宅配業者の双方の課題を解決するために物流サービスの効率化を進め、新たなサポートシステム「ソコタク」を考案しました。  
今後も、時代の変化に対応した柔軟な発想で、物流業界の業務の効率化に貢献するとともに、お客さまへの最大限のサービスをご提供していきます。

物流業界は人手不足に直面しており、ネット通販の普及で増

#### ■ 「ソコポス・ソコタク」の仕組み

